

# ブルーカーボンデータアーカイブシステムの 利活用に向けた方針

---

港湾局 海洋・環境課

# ブルーカーボン高精度データ把握・管理システムの利活用に向けた方針

○ 今後、日本の沿岸域における藻場の分布状況を効率的に計測し、ブルーカーボン高精度データ把握・管理システムを活用して毎年GHGインベントリへの提出等に用いるCO<sub>2</sub>吸収量を算定できる仕組みが必要。

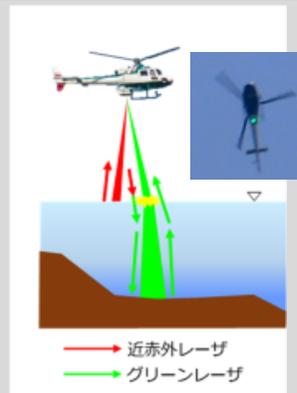
## 想定される課題と対応方針(案)

- 【課題1】 藻場の分布面積を計測する機器を全国各地に配備する必要が生じるが、行政だけの対応は困難。
- 【課題2】 複数企業においてもそれぞれ計測技術を開発・検証中だが、計測手法や計測精度の目安がなく、それぞれ異なるため、情報を集約してGHGインベントリに活用することは現状困難。
- 【方針案1】 企業による計測情報をGHGインベントリの算定に活用できる環境整備や、企業の参入を促す方策を検討（計測精度の確実性担保・計測技術の認証等を想定）

### <計測技術(例)>



【水空合体ドローン】  
出典：株式会社KDDI総合研究所



【航空レーザー測深】  
出典：国際航業株式会社



【リモートセンシング】  
出典：富士通株式会社



グリーンレーザー搭載  
ハイブリッドドローン(試作機)  
港湾空港技術研究所

- 【課題3】 本システムを用いて算出するCO<sub>2</sub>吸収量は、半永久的にGHGインベントリ報告に活用することとなるため、持続的な運用体制が必要。
- 【方針案2】 本システムの運用保守、計測データの検定・認証、吸収量の算定等を行う運用体制を検討（国土交通省港湾局において関係機関と今後調整し決定）

## ブルーカーボン計測作業仕様書(仮称)の整備

- 高精度データ把握・管理システムに、企業が開発した計測技術による計測データを集約し、インベントリ算定等に活用できる環境を整備するため、計測精度の確実性を担保するため「ブルーカーボン計測作業仕様書」(仮称)の作成を目指す。

### ブルーカーボン計測作業仕様書(仮称)で整理する事項(案)

1. GHGインベントリに活用できる藻場の分布面積計測の確実性に関する基準
2. 海洋植生の判定に必要な情報項目及び面積推定手法
3. ブルーカーボン高精度データ把握・管理システムとのシステム連携仕様
4. (参考)グリーンレーザー搭載ドローンの技術仕様 等

### 検討体制(案)

1. ~3. について、  
役割検討会の下に「ブルーカーボン計測作業仕様書検討ワーキンググループ」を設置し、整理すべき事項の検討や仕様書の検討・作成を行う。

#### ブルーカーボン計測作業仕様書検討ワーキンググループ (構成員) ※調整中

- ・計測技術を有する民間企業  
※リモセン技術、ドローン技術、航空測量、その他技術を有する企業から1, 2社ずつ
- ・GHGインベントリ算定に精通する有識者 等  
(事務局)
- ・国土交通省港湾局
- ・港湾空港技術研究所

※4については、港湾空港技術研究所において検討・作成

### 検討スケジュール(案)

- 令和6年度中に、仕様書整備についてワーキンググループで議論し、仕様書(初版)を作成。  
令和7年度以降運用を開始し、適宜改訂を実施。

仕様書整備内容のイメージ(紫箇所)

